

# 図書館通信

最上校図書委員会

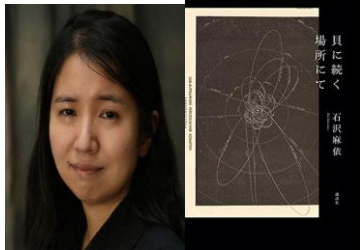
No.9 7月15日



## 7月図書館企画 第165回 芥川賞・直木賞 決定!

7月14日、東京・築地「新喜楽」において、選考会が開かれた。両賞は1935年に制定。芥川賞は新聞・雑誌に発表された純文学短編作品、無名・新進作家が対象。直木賞は新聞・雑誌・単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品の中から、無名・新進・中堅作家が対象となり、優れた作品に贈られる。

各賞がW受賞となるのは、10年半ぶりだということです。



**芥川賞受賞作「貝に続く場所にて」 石沢麻衣著**  
初ノミネート受賞。

コロナ禍が影を落とす異国の街に、9年前の光景が重なり合う。静謐な祈りをこめて描く鎮魂の物語。

**芥川賞受賞作「彼岸花が咲く島」 李琴峰著**  
2回目のノミネートで受賞。

その島では〈二ホン語〉と〈女語〉が話されていた。記憶を失くした少女が流れ着いたのは、ノロが統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった。不思議な世界、読む愉楽に満ちた中編小説。



**直木賞受賞作「テスカトリポカ」 佐藤究著**  
直木賞には初ノミネートで受賞。

麻薬密売人のバルミロ・カサソラは、メキシコから逃走し、日本人の臓器ブローカーと出会った。二人は新たな臓器ビジネスを実現させるため日本へと向かう。川崎に生まれ育った天涯孤独の少年・土方コシモはバルミロと出会い、知らぬ間に彼らの犯罪に巻きこまれていく。人間は暴力から逃れられるのか。心臓密売人の恐怖がやってくる。誰も見たことのない、圧倒的な悪夢と祝祭が、幕を開ける。



**直木賞受賞作「星落ちて、なお」 澤田瞳子著**

5回目のノミネートで受賞。

父の影に翻弄され、激動の時代を生き抜いた女絵師の一代記。

不世出の絵師、河鍋暁斎が死んだ。残された娘のとよ（暁翠）に対し、腹違いの兄・周三郎は事あるごとに難癖をつけてくる。早くから養子に出されたことを逆恨みしているのかもしれない。暁斎の死によって、これまで河鍋家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。兄はもとより、弟の記六は根無し草のような生活にどっぴりつかり頼りなく、妹のきくは病弱で長くは生きられそうもない。

河鍋一門の行末はとよの双肩にかかっているのだった。



**芥川賞ノミネート作品**



**直木賞ノミネート作品**



くどうれいん著・高瀬隼子著・千葉雅也著・一穂ミチ著・呉勝浩著・砂原浩太郎著

## 長期貸し出しのお知らせ

7月20日(火)～8月27日(金)まで、図書館から本を5冊借りることができます。夏季休業中に読む本をぜひ貸りてください。

**夏季休業：7月28日(水)～8月26日(木)**

**冊数：2冊 → 5冊**

※夏季休業前に、今借りている本を一度返却してください。



## 芥川賞 受賞作品を読んでみよう!

### 「グランド・フィナーレ」 阿部和重著 第132回受賞

二人の女兒と出合った。神町(じんまち)土地の因縁が紡ぐ物語。ここで何が終わり、はじまったのか。

### 「土の中の子供」 中村文則著 第133回受賞

虐待の記憶の向こうに再生の芽を探る新世代文学。

### 「乙女の密告」 赤染晶子著 第143回受賞

悲劇の少女アンネ・フランクと現代女性の奇跡の邂逅を描いた、感動小説。

### 「きことわ」 朝吹真理子著 第144回受賞

貴子(きこ)と永遠子(とわこ)。ともに過ごした葉山の夏の日から25年。幼年時代の記憶のディテール。

### 「冥土めぐり」 鹿島田真希著 第147回受賞

家族から逃れたはずの奈津子だが、突然、夫が不治の病にかかる。だがそれは、奇跡のような幸運だった。夫とめぐる失われた過去への旅を描く。

### 「春の庭」 柴崎友香著 第151回受賞

東京、世田谷の取り壊し寸前のアパートに住む太郎は、住人の女と知り合う。彼女は隣に建つ、水色の家に、異様な関心を示していた。街に積み重なる時間の中で、彼らが見つけたものとは?

### 「スクラップ・アンド・ビルド」 羽田圭介著 第153回受賞

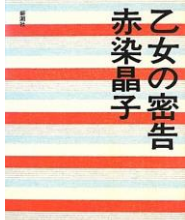
「早う死にたか」毎日のようにぼやく祖父の願いをかなえてあげようと、ともに暮らす孫の健斗は、ある計画を思いつく。閉塞感の中に可笑しみ漂う、新しい家族小説。

### 「火花」 又吉直樹著 第153回受賞

売れない芸人徳永は、先輩神谷とお笑い哲学に心酔して行動を共にしながら議論を続けるのだが、やがて二人は別の道を歩んでいくことになる。運命は二人をどこへ連れていくのか。

### 「死んでいない者」 滝口悠生著 第154回受賞

秋のある日、大往生を遂げた男の通夜に親類たちが集った。一人ひとりが死に思いをさせ、互いを思い、家族の記憶が広がっていくが?



## 直木賞 受賞作品を読んでみよう!

### 「理由」 宮部みゆき著 第120回受賞

東京都荒川区の超高層マンションで起きた凄惨な殺人事件。殺されたのは「誰」で「誰」が犯人なのか。事件の前には何があり、後には何が残されたのか。

### 「王妃の離婚」 佐藤賢一著 第121回受賞

正義と誇りと、愛のために、手に汗握る中世版法廷サスペンス。

### 「プラナリア」 山本文緒著 第125回受賞

乳がんの手術以来、何をするのもかったるい25歳の春香。この洞窟の出口はどこにある。現代の“無職”をめぐる五つの物語。

### 「あかね空」 山本一力著 第126回受賞

上方から江戸へ下った豆腐職人の永吉。技量一筋に生きる永吉を支えるおふみ。京と江戸との味覚の違いに悩みながらもやっと店を構える。継いだ三人の子らの有為転変を、親子二代にわたって描いた物語。

### 「肩ごしの恋人」 唯川恵著 第126回受賞

性格も考え方も正反対だけど二人は親友同士、幼なじみの27歳。

対照的な二人が恋と友情を通してそれぞれに模索する幸せのかたちとは?女の本音と日常をリアルに写し痛快、貪欲にひたむきに生きる姿が爽快。圧倒的な共感を得た。

### 「4TEEN」 石田衣良著 第129回受賞

出会ったすべてを精一杯に受け止めて成長していく14歳の少年たちを描いた爽快青春ストーリー。

### 「邂逅の森」 熊谷達也著 第131回受賞

秋田の貧農の家に生まれた富治。マタギとなり獣を狩る喜びを知るが、地主の一人娘と恋に落ち、村を追われる

### 「対岸の彼女」 角田光代著 第132回受賞

葵と小夜子、二人の出会いと友情は、些細なことから亀裂を生じていくが、孤独から希望へ、感動の傑作。

### 「花まんま」 朱川湊人著 第133回受賞

母と二人で大切に生きてきた幼い妹が、ある日突然、大人びた言動を取り始める。それには信じられないような理由があった。

